

平成30年度
こころ医療福祉専門学校佐世保校
学校自己評価結果報告書

平成31年4月18日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標

- 1 岩永学園グループビジョン
「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
(1) 地域社会から必要とされる組織であり続ける。
(2) 地域社会から必要とされる人材を輩出する。
- 3 基本方針
(1) 岩永学園グループの一員として、信頼あるプライドの持てる学校を確立する。
(2) 社会に貢献できる、医療人としての専門性と豊かな人間力を育成する。
(3) 日本社会に適應できるための日本語能力の向上と日本文化理解の指導に努める。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 教育の質の向上
 - ① 柔道整復科(スポーツ柔整科)・健康鍼灸科
 - ・授業の充実と国家資格試験合格率100%達成
 - ・就職指導の充実と就職率100%達成
 - ② 日本語科
 - ・授業の充実と日本文化理解のための学校行事の設定
 - ・日本語能力試験(JLPT)N2、N3取得へ向けた指導力向上
 - ・進学指導の充実と進学率100%達成
- (2) 留学生の受け入れ
 - ・岩永学園留学生受け入れ4校の連携
 - ・アルバイト受け入れ企業の開拓と良好な関係性の構築
- (3) 4事業連携深化と企業・地域との社会連携・社会貢献
4事業=①教育事業 ②介護事業 ③人材支援事業 ④外国人技能実習事業
 - ・介護施設訪問による求人確保
 - ・留学生奨学金連携介護施設および留学生アルバイト受け入れ介護施設の開拓
 - ・自治会や地域住民への貢献

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	深い専門知識、技能と誠実で人間味あふれる人材育成を目指し、専門分野への就職の支援を通じて社会に貢献する理念が明確に定められている。 【教職員アンケート質問1 3.80】
・学校における職業教育の特色は何か。	4	③	2	1	医療現場で実際に求められる知識や専門的な技術の修得のみならず、学園理念に基づき、人間力豊かなプロフェSSIONALを目指す人材育成に努めている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	③	2	1	本学園が経営する4事業間の連携を通して、将来を見通した社会や関連業界のニーズに応じるための学校経営を計画している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係者等に周知されているか。	4	③	2	1	入学前のガイダンス、入学後は、保護者面談やこころ新聞等で周知活動に努めている。 【教職員アンケート質問2 2.93】 【学生アンケート質問1 3.42】 平均3.18
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	③	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、関連業界の動向と将来性を注視し、情報交換を通して、学校・学科運営に反映させている。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・常に関連業界と連携を取りながら、業界の動向に注意を払い、将来性を見据えて教育内容を組み立てていくことが必要である。 ・学校の理念、教育目標等の保護者への周知について、更なる徹底に努める。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・こころ新聞やパンフレット等の配布物を充実させる。 ・教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を通じた関連業界との連携をさらに強化するとともに、関連業界の動向把握に努め、より精度の高い評価能力を開発していく。 ・学校の理念や教育目標等について、保護者との面談や配布物、インターネット等による周知の機会を増やす。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	年間を通した教職員研修会の場で理事長から運営方針が提示される。一昨年1月の研修会にて新たなビジョンが提示された。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	校長を中心として、各職員が前・後期ごとにPDCAサイクルを実施してきた。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	組織図、各種会議を設置し、定期的に行き、活動計画を定めている。また議事録を回覧し職員への周知を図っている。 【教職員アンケート質問3 2. 87】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	学園本部のもと、整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	法令に基づいた企業活動に務め、地域行事への参加等を通して、業界及び地域との関係は良好である。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	学校HP、オープンキャンパス、学校ガイダンス、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等を通して、情報公開をしている。カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布している。 【教職員アンケート質問4 3. 40】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	OA機器の導入、共有サーバーの構築など、業務の効率化は図られている。

①課題

・PDCAサイクルにおいて、各学科・部署単位の組織としての具体的な目標・実施計画を立て、目標達成に向けて着実に実施する。

②今後の改善方策

・共有サーバーにデスクネットの導入を検討中である。
・PDCAサイクルにおいて、目標達成に向けて、数値目標を多く取り入れた目標・実施計画を立てる。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④	3	2	1	社会のニーズに沿った人材教育を行うことを教育理念として掲げ、各科の養成施設指定規則に則って策定されている。 【教職員アンケート質問5 3. 73】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	③	2	1	校内実施の就職説明会や教育課程編成委員会等を通して、業界団体と意見交換を行い、業界のニーズを捉え、これを基に教育到達レベルを設定している。 【教職員アンケート質問6 3. 33】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	④	3	2	1	教育課程編成委員会等を通して、指定規則に基づき、体系的に編成されている。 【教職員アンケート質問7 3. 80】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	③	2	1	教育課程編成委員会で関連企業との連携をとり、キャリア教育・実践的な職業教育の工夫・開発を実施している。 【教職員アンケート質問8 3. 47】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	③	2	1	教育課程編成委員会を開催し、関連業界との連携をとっている。 【教職員アンケート質問9 3. 00】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	③	2	1	授業評価アンケートを年2回実施し、PDCAの評価材料としているが、特に非常勤講師に対するその後の具体的な改善策が充分ではない。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	④	3	2	1	年2回の教育課程編成委員会を設置し、改善に努めている。また臨床実習を行うにあたり、外部施設との連携を図り、評価に繋げている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	④	3	2	1	学生便覧に明示し、随時学生に説明している。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	④	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、専門基礎科目を土台とし、専門科目や実技科目に繋げ、体系的に行われている。 【教職員アンケート質問10 4. 00】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	③	2	1	全教員が業界のニーズを捉え、発展に寄与できる人材教育を念頭に置いた学生への関わりを行っている。
・関連分野における優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	③	2	1	優れた教員を確保するために、常に関連企業との情報交換に努めている。また、教員は各業界の学校協会主催の研修会に参加し、他学校教員との知識や情報の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	③	2	1	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を通じて、現場と教員との意識や知識の共有を図っている。また、教職員が授業を互観し、気付きを指摘し合い、指導力向上に努めている。 【教職員アンケート質問11 2. 73】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	③	2	1	外部講師を招聘し職員研修会を定期開催している。外部研修への参加も積極的に行っている。 【教職員アンケート質問12 2. 73】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの遂行。 ・授業内容や教授法について、把握、評価する体制が充分でない。 ・授業評価アンケートを集計した後の非常勤講師との打ち合わせや話し合い。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師と定期的に打ち合わせを行う。 ・計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法の向上に努める。 ・教職員が参加した学会やセミナー等の伝達講習会を開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の授業力等、質の向上に努める。 ・シラバスに則った新カリキュラムの遂行。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1			
・進学率・就職率の向上が図られているか。	4	③	2 1	企業説明会や担任による細やかな学生対応、新規求人先企業の開拓を積極的に行っている。 【教職員アンケート質問13 3. 47】 【学生アンケート質問2 3. 46】 平均3. 47
・資格取得率の向上が図られているか。	④	3	2 1	資格・国家試験対策会議の実施、早期からの放課後補講の実施等、各種資格取得率の向上に取り組んでいる。前年度より合格率が向上している。 【教職員アンケート質問14 3. 47】 【学生アンケート質問3 3. 95】 平均3. 71
・退学率の低減が図られているか。	4	③	2 1	問題学生について早期の保護者面談や個人面談の実施等、退学者を減らす対策を講じている。 【教職員アンケート質問15 2. 93】 【学生アンケート質問4 3. 95】 平均3. 11
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2 1	卒業生の就職先巡回や卒後教育の実施、在校生の面談を行っているが、全てを把握しているとはいえない。 【教職員アンケート質問16 3. 20】 【学生アンケート質問5 2. 49】 平均2. 85
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2 1	卒業生に広く呼びかけて、卒後研修会を実施している。そで行われる現場との情報交換を教育活動に還元している。 【教職員アンケート質問17 3. 33】 【学生アンケート質問6 3. 49】 平均3. 41

①課題

・柔道整復科、健康鍼灸科ともに、国家試験合格率は例年よりも高かったが、基礎学力の改善、学習能力の向上のための工夫や努力が更に必要である。
・退学率軽減のために、更に工夫や努力が必要である。

②今後の改善方策

・通常授業での更なる工夫と放課後補講を充実させ、学力向上を図る。
・臨床実習やトレーナー部での外部活動を通して学生の満足度向上を図る。
・年間2回の個人面談の実施、成績不良者に対しては適宜個人面談と保護者面談を行う。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	個々の学生に対する担任の就職相談や就職先説明会を実施し、新しい就職情報を学生に提示している。 【学生アンケート質問2 3.46】
・学生相談に関する体制は整備されているか。	④	3	2	1	担任をはじめ、教職員が相談に応じているが、今年度から心理カウンセラーによる相談窓口を設置した。 【教職員アンケート質問18 3.73】 【学生アンケート質問7 3.70】 平均3.72
・学生に対する経済的な支援体制(アルバイトの紹介)は整備されているか。	4	③	2	1	日本学生支援機構等の奨学金が利用可能。学費の分納にも対応。各種減免措置を講じている。随時アルバイトの求人を紹介している。 【教職員アンケート質問19 2.91】
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	③	2	1	看護職員(非常勤)による保健室管理運営に加え、毎年の集団健康診断を実施している。 【教職員アンケート質問20 3.27】 【学生アンケート質問8 3.46】 平均3.37
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	認可された課外活動に顧問を配置し、補助金を支給し奨励している。 【教職員アンケート質問21 2.93】 【学生アンケート質問9 3.56】 平均3.25
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	③	2	1	遠隔地からの入学者に転居費用の一部補助等の支援を行っている。 【教職員アンケート質問22 3.00】 【学生アンケート質問10 3.65】 平均3.33
・保護者と適切に連携しているか。	4	③	2	1	入学前からの面談、入学後の成績状況、生活状況等、必要に応じて保護者との面談を実施している。 【教職員アンケート質問23 3.23】
・卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2	1	不定期ながら、卒後教育として公開講座を開き、就職や転職の情報交換の場を設ける等、支援している。 【教職員アンケート質問24 2.87】 【学生アンケート質問12 3.42】 平均3.15
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	③	2	1	国が定める「職業訓練事業」を受託し介護職についての研修を実施している。また、教育訓練給付金制度(一般・専門実践)の有効指定講座として指定を受け、社会人が受講しやすい環境を提供している。 【教職員アンケート質問25 3.20】 【学生アンケート質問13 3.65】 平均3.43
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	③	2	1	本校における各種資格講習会の開催や高校訪問授業、高校でのガイダンス等を実施している。 【教職員アンケート質問26 2.87】

①課題

・保護者へ、学生の情報や学校の情報を可能な限り多くの機会に提示する。

②今後の改善方策

・保護者面談会を開催し、情報の共有化を図る。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1		
<p>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</p>	4	③	2 1
<p>・学内での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</p>	4	③	2 1
<p>・防災に対する体制は整備されているか。</p>	4	③	2 1

①課題

<p>・より高度な教育環境を実現するための施設や設備の更新。 ・臨床実習施設での外部実習の遂行。</p>
--

②今後の改善方策

<p>・設備面でのメンテナンスなど、定期点検をさらに強化して、必要な設備等があれば、更新する。 ・臨床実習施設指導者と打ち合わせを繰り返し、問題のない臨床実習を行う。</p>

③特記事項

<p>なし</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・学生募集活動は適正に行われているか。	4	③	2	1	募集活動は、ガイダンス等で職業紹介や県外流出を防ぐための地域貢献についての説明を行っている。高校生対象の入学試験は10月以降に実施している。
・学生募集活動において教育成果(目標)は正確に伝えられているか。	④	3	2	1	募集パンフレットやインターネット上で就職率等を正確に伝えている。 【教職員アンケート質問30 3.93】
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	他校に比較して平均的な設定となっている。 【教職員アンケート質問29 3.40】 【学生アンケート質問16 3.42】 平均3.41

①課題

・県内外高校新卒者にとって、魅力のある学校になるような取り組み。

②今後の改善方策

・少子化、高校生の大学進学志向、就職状況の向上などが顕著化し、高校新卒生、社会人共に入学希望者が年々減少している。このような状況下で、コストの削減を図りつつ効果のある広報活動を展開していく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1	入学者の確保のため各学科教育内容の刷新を行うとともに、経費削減等で財務の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	予算作成に際して、校長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適正に行われているか。	④	3	2	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	④	3	2	1	公開している。

①課題

・少子化による、高校新卒者の減少、就職状況の向上による社会人入学希望者の減少に対して、如何に効果的な広報活動を行うか。

②今後の改善方策

・経費削減を行い、より効果的な広報活動を行う。
・附帯教育の強化等、新しい事業展開を検討する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	④	3	2	1	学校教育法、各種養成施設設置規則等を遵守している。県の監督部署の指導調査では、概ね良好で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	④	3	2	1	個人情報管理規定の整備、文書ロッカーの施錠、使用済名簿のシュレッダー廃棄等を実施している。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	③	2	1	毎年、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会にて審議、協議を行っている。
・自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1	自己評価結果をインターネット上の学校ホームページに公開している。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・学園グループ全体のネットワーク情報のセキュリティ管理。 ・自己評価での問題点についての組織的な改善体制の整備。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク情報システム管理の強化と教職員セキュリティ教育の推進。 ・新PDCAを導入することにより、諸問題に対して、組織的に取り組み、学校力の向上を図る。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	③	2	1	本校施設における介護福祉に関する職業訓練事業の実施、自治会行事、ボランティア活動への積極的な参加等を通して社会貢献、地域貢献を行っている。 【教職員アンケート質問31 3.20】
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	③	2	1	施設や自治会等からのボランティア依頼の伝達及び、学生引率等を実施している。また、教員・学生によるトレーナー部の活動を通じて、地域の行事やスポーツ大会へのボランティア実習を実施している。 【教職員アンケート質問32 3.20】 【学生アンケート質問17 2.58】 平均2.89
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	④	3	2	1	毎年、一定の職業訓練生を受け入れている。関連する専門資格者による各種研修や、公開講座の開催等を実施している。 【教職員アンケート質問33 3.80】

①課題

・学校の立地や設備の制限のあるなか、最大限に活用する。

②今後の改善方策

・様々な団体との連携により、学内外の施設を利用した社会貢献と地域貢献の機会を増やしていく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1				
・留学生の受入れについて戦略を持って行っているか。	4	③	2	1	留学生の卒業後の進路設計を行いながら、担当者が現地に赴き、質の高い留学生の獲得に努めている。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	③	2	1	留学生の受入れについて、慎重な審査を行ったうえで、適切な入国管理手続きを行ってきた。今後も入国管理局の指導のもと、適切な手続きを通して、留学生を受け入れていく。 【教職員アンケート質問34 3. 40】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	③	2	1	留学生担当の教員、事務責任者を配置し日本語能力の習熟度によるクラスの編成、組織的な学習指導体制の整備を進めている。清掃、喫煙等、寮での生活のあり方は、少しずつではあるが、改善してきている。 【教職員アンケート質問35 3. 20】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	③	2	1	上級学校への進学、その後の就職の為に日本語能力試験(N2、N3)の合格者を多数輩出する為の指導を行っているが、国際的な評価を得るまでには到っていない。 【教職員アンケート質問36 2. 73】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な留学生に対し、互いの生活文化の相互理解をいかに促進させるか。 ・いかに学習意欲を向上させ、希望する進学を実現させるか。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・授業や寮生活のあらゆる場面で、教職員が日本の生活習慣や文化に触れる環境を提供する。また、アルバイトや地域行事への参加等を通して、日本の生活文化に触れさせる。 ・専門学校や大学等、希望する進学を実現させるために、興味関心を持たせる授業の工夫に努める。
--

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成30年度の総括

1 教育の質の向上について

柔道整復科は、国家試験合格率100%という目標には到達できなかったが、国家試験合格率88.2%と昨年を1.2ポイント上回った。はり師・きゅう師ともに国家試験合格率100%を達成し、昨年を9.1ポイント上回った。これは、4月の段階から一人ひとりの学力に応じた指導、「補講」の実施、合格率100%という目標達成に向けた教職員の熱心な指導と、自らの将来を見据えて努力してきた学生の大きな成果である。就職率も2学科ともに、100%を達成する見込みである。

2 日本語科について

日本語科を開設して4年目を迎える。試行錯誤の中で、年度を重ねるにつれ学校運営のあり方を整えてきた。その間、日本語教育については、JLPT(日本語能力試験)N2合格者が、平成28年度1名、平成29年度0名に対し、平成30年度は5名に増加した。N3合格者が、平成28年度7名、平成29年度5名に対し、平成30年度は15名と躍進した。日本文化や生活習慣を理解させることについては、年中行事、地域観光、寺院訪問等を通して理解を深めさせることが出来た。「連携施設奨学金制度」により、日本語科の学生11名がこころ医療福祉専門学校介護福祉科へ進学することができた。また、本校が所在する地域の行事やボランティア活動に職員・学生が積極的に参加した。進学指導には早めに取りかかり、帰国者を除き44名が希望の進学先へ進学することが出来た。

3 企業・地域社会への貢献と連携について

「学校関係者評価委員会」や「教育課程編成委員会」を通して、評議員による企業からの本校に対する建設的な意見や情報を伺い、学校運営に反映する等、企業との連携を図ることが出来た。柔道整復科の教員・学生が各種スポーツ地域大会へボディケアのボランティアへ積極的に参加した。本校が所在する自治会・公民館の総会、地域清掃やボランティアへ積極的に参加し、地域社会との交流を深めることができた。

4 今後の取り組み

平成31年度も新PDCAを継承し、「重点教育目標」に掲げた国家試験合格率の向上や日本語能力試験の合格率の向上等の数値目標達成に向けて、そして心豊かな医療人の育成、留学生の日本文化理解の深化に向けて、職員協力体制のもと組織的な取り組みに尽力する。

学校の教育目標 平成31年度（2019年度）

1 学校経営スローガン

- (1) 専門力と人間力を併せ持つ、心豊かなプロフェッショナルの育成
- (2) 日本社会に適應できる日本語能力の向上と日本文化理解の深化

2 基本方針

- (1) 信頼あるプライドの持てる学校の確立
- (2) 社会に貢獻できる専門性と豊かな人間力の育成
- (3) 留学生の日本語能力と日本文化理解向上の指導強化

3 重点教育目標

(1) 授業と教育の質の向上

①スポーツ柔整科

- ・授業の充実と国家資格試験合格率100%達成
- ・就職指導の充実と就職率100%達成
- ・医療人としての専門性教育と人間力育成

②日本語科

- ・授業の充実と日本語能力試験合格率の向上
- ・日本文化理解及び日本社会適應のための指導の徹底
- ・進学指導の充実と進学率100%達成
- ・学園内日本語科との連携強化

(2) 学生募集

①全職員協力体制

②募集目標 スポーツ柔整科25名 日本語科定員120名確保

(3) PDCAシステムの活用

- ①学校自己評価による学校力向上と学校活性化
- ②組織として機能する学校づくりと教職員の指導力向上

4 具体的な対策

- (1) 授業の充実と教育の質の向上
- (2) 豊かな人間力の育成
- (3) 退学・不登校の減少対策
- (4) 国家試験（日本語能力試験）対策の充実
- (5) 進路指導・就職指導の充実

5 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 互観授業、授業研究の実施
- (2) 模擬試験結果検討会、学力検討会の実施
- (3) 早期個別面談による意識啓発と学生理解の深化
- (4) 連携校・諸施設との連携・関係強化
- (5) PDCAシステムによる、組織として機能する学校づくり